



サポセン富山たより

第 13 号

令和 5 年 3 月発行

富山市保護司会更生保護サポートセンター

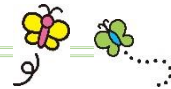
電話：076-461-4706 FAX：076-461-4707 メール：saposentoyama@gmail.com

初の三者座談会開催

去る1月29日(日)富山養得園において更生保護女性会、保護司会の支援による養得園生との初の座談会が開催されました。更生保護女性会からは五十嵐星子会長、河井裕子副会長、坂林君枝会計及び江西啓子氏の4名、保護司会からは、杉木芳文氏、中田斉子氏、長谷川敏博氏の副会長3名が、養得園からは藤坂副理事長、柞山補導主任の2名が出席した。

この座談会は更生保護女性会からの強い要請で、更生を誓って日々就労や社会規範の取得に努力している彼等と直接顔を見ながら応援しようとの趣旨で実現したものである。ご承知のとおり更生保護女性会からは、遡ること数十年前から、毎日曜日に夕食支援を受けていた実績があるものの、具体的な座談会等はなかったところ、当日出席した園生は就労日であった人を除き9名の人が参加する賑やかなものになった。

さて開宴である。柞山補導主任の司会進行により、最初に養得園代表として藤坂副理事長が歓迎の挨拶を行い、次いで保護司会の杉木氏、更女会の五十嵐会長の挨拶が行われ、4組のグループに分かれた座談会が始まった。各自のそれぞれのテーブルには、舌がとろけるようなケーキや各種取り混ぜた茶菓子、さらには湯気を立てている香ばしいコーヒーが置かれ、更女会の愛情が溢れんばかりである。会の初め頃は、目の前の席に居並ぶ保護司や更女会の皆さんを前に緊張していた彼等も美味しいケーキ等で次第に心を開き、笑顔を見せるようになり、応援してくれている人がいるんだと気付いてくれたことと感じられる明るく賑やかなものであった。きっと彼らはこれらの応援に添えてより良き社会人になるべく頑張ろうと思ってくれるでしょう。因みに後日、園生から提出のあったアンケートによれば、久しぶりに沢山の友達と会話することができて楽しかった、更生保護女性会の優しさを感じました。これからの生活計画を立てるためのアドバイスを教えて貰いました。いろいろな話が聞けて楽しかった。このような機会を設けていただき本当に嬉しかったです等々の言葉が並んでおりました。



令和4年度保護司会・更生保護女性会・BBS会連携強化研修実施される

2月20日(月)婦中ふれあい館において、標記大会が開催されました。この研修会は、地域における更生保護の諸活動をより一層充実したものとするため、三者が相互に連携して行くことが重要であるとして、「更生保護ボランティアの協働に関する三者宣言」を踏まえ、相互理解と連携の在り方について検討・協議することを目的として行われたものです。

この研修会には、県保護司会連合会協力組織担当役員、県更生保護女性連盟役員、地区更生保護女性会役員、県BBS連盟役員、地区BBS会役員、地区保護司会協力組織部会長が参加した。

研修会は、富山保護観察所の中澤所長の挨拶の後、地域再犯防止推進事業の目玉である相談支援事業及び訪問支援事業について詳細な説明がなされ、次いで、参加した保護司会、更女会、BBS会から連携の現状報告があり、さらに今後の課題等について協議するという内容であった。

更生保護は野菜作りか？



南部支部 藤坂政行

矯正の職を辞して10数年、今更生保護に携わっている。矯正の時代、あいつ最近入って来ないなあと思っていたら次の赴任先の施設にいて「親父久しぶり。転勤して来たのか」等驚きの現実。その男は、以前出所する際涙を流しながら「今度こそ戻りません。絶対に真人間になります」と固い決意を示していたのである。このように何度も何度も騙され、さらにまた騙されるという連続で、現実のいずれも結果が直ぐには見えない難しい任である。毎日がある意味生産性のないストレスとの戦いであった。

そんな中、両手に届く年数続けている趣味と実益を兼ねるものを持っている。野菜作りである。土を耕し肥料を施し、種を蒔き水やりを欠かさず、時には青虫と戦い、これでもかと生え出す雑草退治に汗をかくのです。どこからこんな虫が出るのかとか、取り除いても取り除いても生えてくる雑草の強さなどに驚きながら、この強さが欲しいなあ。額の汗を拭いた後、ふと思うのです。この強さを我々の対象者である彼等に身につけて貰えないかと。対象者に対する我々の極意は、野菜作りで培った根気で粘り強く何度でも説き諭し、背中で教えるという一つだと思ふ。

皆さん、一人でも良いのです。彼等が自らの今までの行動に疑問を抱き、行く末を見つめ直すという気付きを与えられるそんな保護司に向かって頑張りましょう。我々は種を蒔き、水やりをしているのです。蒔いた種が芽を出した時の喜び、まさに彼等が自らの間違いに気付き、これまでの生き方を変えようとするその日を迎えるために。因みに矯正時代の座右の銘を紹介して筆を置きます。

『泣き突き笑い説き諭し、粘り絡んで泥吐かす』



★経過報告・今後の行事予定



- 3月**
27日(月) 第4回 理事会 社福協 大ホール
28日(火) 県広報編集委員会 富山保護観察所
- 4月**
3日(月) 第1回 理事会 社福協 大ホール
10日(月) 企画調整保護司全体会 社福203号室
14日(金) 支部長会 社福203号室
- 5月**
8日(月) 定期総会 社福協 大ホール
10日(水) 県社明推進委員会 グランテラス富山
11日(木) シンポジウム(民児協合同)社福協大ホール
- 6月**
5日(月) 富山市社明推進委員会 社福協大ホール
9日(金) 市中学生生活体験発表大会(場所未定)
- 7月**
1日(土) 県中学生生活体験発表大会(タワー111)
3日(月) 富山駅街宣活動 市長メッセージ伝達式

令和5年度 企画調整保護司メンバー紹介

東 部	中野 仁(再)	西野和弘(再)
西 部	長尾典子(再)	平井賢一(新)
中 部	二宮 啓(新)	細川淳栄(新)
南 部	岡本達也(再)	藤坂政行(再)
	岩田和枝(再)	
北 部	細川規景(再)	坂林君枝(再)
	岡田一郎(再)	
呉 羽	澤田博明(再)	本庶充之(再)
水 橋	杉木芳文(再)	村上一巳(再)
上新川	神川一成(再)	高木肇子(再)
	森沢 勇(再)	
婦 負	浅野則夫(再)	坂井栄一(新)
	森 省三(再)	

令和5年度もどうぞよろしくお願い致します。

※ 3/27現在確認中のメンバーであり
今後変更になる可能性もあります。



こぼれ話・・・再犯防止セミナーから

富山養得園における再犯防止セミナーが隔月おきに開催されるようになってから早数年、再犯を防止するには何が必要か、ほぼ意見が出尽くした感がある。

そんな中で先日行われた内容の一部をここに紹介したい。保護司にとって現場を知ることは大変意義深いものがあると思う。法務省の統計からの拾い上げた数字であり、最近の犯罪の推移を知る一助にして頂ければ有難い。



刑事司法と福祉との連携について

我が国で発生する犯罪は、ここ20年ばかり減り続けているが、刑法犯検挙人員に占める高齢者の割合は上昇している。当然、刑務所に入所する者の数も増え、受刑者の高齢化が進んでいる。令和2年の刑務所の新受刑者16,620人中、65歳以上が12.9%の2,143人、70歳以上が7.5%の1,249人であり、20年前と比べ65歳以上の者が2.1倍以上に増加し、70歳以上の者も3.8倍に増加している。

また精神障害者については、令和2年における新受刑者を20年前と比べると実数の上では大きな差はないものの、新受刑者の15.3%の2,544人となっている。

高齢者や障害者の中には通常の作業ができないため、養護工場を設けて就労させたり、食事や休養に配慮したり、職員が介護業務に当たったり、個別対応をするなど福祉的用務を行う事も多く、何よりも出所後の福祉業務につなぐことに苦慮することが続いてきたのは、制度的なものが無かったことによるものである。

平成21年から地域生活支援定着センターが各都道府県に設置されるようになり、高齢者や障害者で福祉支援が必要な者については、同センターが中心となって、刑務所、保護観察所と連携して福祉施設へつなぐなど支援が実施されるようになってきている。司法と福祉の必要性の所以である。

今後の課題

訪問支援事業について 地域連携拠点事業について

